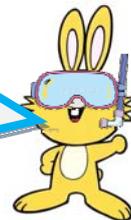


<vol.162の記事>

■指導者の紹介 サッカー編 (その1)

■浦スポ23年間の謎 その3 2004年 多種目展開が円滑に進んだ理由



サッカー指導者の紹介 (その1)

■スーパーシニアサッカー広場

◆遠山茂コーチ

Over60のスーパーシニアサッカー広場(毎週木曜日午後1時~)を担当して下さっているのは、元埼玉教員クラブ(現在のさいたまSCの前身)で選手として活躍され、関東リーグ、国民体育大会などでも多くの優勝経験をお持ちの遠山茂さんです。



浦和ルーテル学院で、約40年間英語教諭とサッカー部顧問として活躍され、退職後、縁あって、浦スポのSSサッカー広場をご担当いただくこととなりました。

現在、埼玉シニアサッカー連盟の会長職も務めながら、ご自身も選手として参加し、全国大会でもブロック優勝を2度遂げるなど、バリバリに活躍されています！

■ユース&スクール&広場

◆高橋孝治コーチ/広場、生涯

学生時代には、慶應義塾大学(関東1部)で活躍され、現在、司法試験にむけて勉強中！

C級ライセンスを持ち、子ども~社会人、女子チームまで幅広く指導。7月からは、生涯コースもお世話になっています！



ヒトコト:「たかがサッカー、されどサッカー！ まだまだサッカーが上手になりたい！ もっとサッカーを楽しみたい！という方、大歓迎です！」

◆武井和磨コーチ/広場、ユース

長野県立上田高校出身で、現在、埼玉大学教育学部保健体育専修。埼玉大学サッカー部で活躍中！

サッカー広場とユースをみられています。少人数のユースを丁寧にしっかり指導してくれています！



◆関山和樹コーチ/広場、スクール、ユース

茨城県立日立第一高等学校出身。埼玉大学教育学部保健体育専修。サッカー一部で活躍されています。

広場、ユースの他、水曜日の高学年向けスクールでも指導してくれています。



ヒトコト:「活動を通してゴールを奪うために、相手との駆け引きを楽しむために個人の技術を磨いています。また、子ども自身が準備や片付けといったサッカーをする環境を整えることにも取り組み、子どもの自主性を引き出したいと考えています。子どもたちの将来のために全力で取り組みたいと思います。よろしくお願いします。」

◆金井寿明コーチ/広場、ユース

埼玉県立熊谷孝行出身、埼玉大学教育学部保健体育専修。サッカー部で活躍されています。

広場の他、ユースも指導してくれています。

ヒトコト:「楽しんでサッカーをするとうことを中心に指導を行っています。よろしくお願いします。」



サッカー広場では、他にもたくさんのコーチが活躍中。次号以降もじょじょにご紹介させていただきます！

見沼たんぼ・スポーツ広場経過報告

2012年1月に、さいたま市、埼玉県に1397名の署名を添えて「スポーツ広場に関する要望書」を提出しました。

これについて、「署名を集めたのにどうなったの?」というご意見もあることから、本号で現状を説明させていただきます。

見沼たんぼ内にある荒地の活用にもついで、地域スポーツクラブによる運営管理方式の導入という新しい仕組みを提案したものでした。

その後の調査で、現地で2m前後の高さで盛られた土の下に相当量の建設廃材が埋められていることがわかりました。

このまま上部利用をすることは、大変危険なため、廃材の処分などが必要となりますが、そのためには多額の費用がかかってしまいます。クラブ単独で、この資金を用意することは困難です。行政としても、簡単に予算を組めない問題であるとの見解があり、整備にむけた方策について、それぞれ検討を続けることとなりました。

見沼たんぼは、様々な市民団体が、その保全のために熱心に活動されています。しかしながら、耕作放棄地などの環境改善が必ずしも十分に進んでいるわけではありません。今回対象とした土地は、周辺でスポーツ利用が進む場所であり、スポーツ愛好家と環境や農業の関係者が連携・協力することで、見沼たんぼの新しい運営方法が見つかるのではないかと考えています。あきらめることなく、多くの方のお知恵とお力を借りながら、実現にむけて取り組みを続けたいと思います。

浦スポの謎 その3

クラブが設立してから23年間、その間には、何度か運営の危機や大きな節目がありました。クラブの講習会などで事例報告をすると、「23年間続いたのはなぜですか？人数が増えたのはなぜですか？」そんな質問をしばしばいただきます。

今回は、その？の三つ目。フィットネスとキッズテニスについて、お話ししたいと思います。

サッカー主体のクラブが、なんで他の種目の会員をすぐ増やせたのか……………

■ブルー・オーシャン戦略？

経済用語で、企業が生き残るために、既存の商品やサービスを改良することで、高コストの激しい「血みどろ」の争いを繰り広げる既存の市場を「レッド・オーシャン」、競争者のいない新たな市場でまだ生まれていない、無限に広がる可能性を秘めた未知の市場空間を「ブルー・オーシャン」と名づけているそうです。

浦スポのフィットネス部門、キッズテニスも、いうなればこのブルー・オーシャンの市場にはまったのではないかと考えます。

■シャワー無し・週1回だけ・駐車場も無し

浦スポのフィットネスプログラムは、ヨガエクササイズが中心に広がりました。2004年の秋に、駒場体育館の柔道場や剣道場を主たる活動場所として始めたところ（ここしか空き施設がありませんでした）、あっという間に口コミで評判が広がり、50人のクラスが2ついっぱいになってしまいました。

2006年、事務所の引っ越しにあわせてスタジオを整備し、クラス数を増やしたところ（会場が小さくなったので、1クラス25人定員）、さらに会員が増え、常盤スタジオとあわせて400名近い会員数となりました。

民間のフィットネスジムにいけば、月1万円以下の会費で、シャワーもあって、毎日行けて、駐車場もあって、プールも入れる……………そんな時代に、なんで、駐車場無し・シャワー無し・週1回だけのプログラムが、これほど人気が出たか……………

浦スポのフィットネスプログラムに参加されているのは、

主に周辺にお住まいの主婦層。皆さん、少しお仕事を持たれていたり、PTAで忙しかったり、ご家族の世話があったり……………と、そんな方が多い地域です。

そうすると、少し運動したいけど……………

- ・ 週に何度もジムに通ってる時間はない
- ・ 月2000円くらいなら、お友達も誘いやすい
- ・ 帰りに一緒にお茶しても経済的にもO
- ・ 近所だから、徒歩か自転車でも十分
- ・ 公民館のサークルは少し面倒……………

だったんです。そういうニーズを満たす場所が、それまでには少なく、そこにポンッと、浦スポのプログラムがハマったのだらうと推察しています。

■3つのテニスブーム

国内のテニスブーム

第1次は、現天皇陛下と美智子妃殿下が軽井沢でテニスをとおして交際を育まれた1960年前後

第2次は「エースを狙え」の流行った70年代半ばから80年代。菅平や山中湖はテニスコートだらけで、学生のサークルがひしめきあっていました。ホイチョイブームなんて言葉を知っている方も少なくないかと思えます。

第3次は、テニスの王子様の始まった平成年代、と言われて

います。今の保護者の皆さんも、実は、かつてはテニスに親しんだ方が多いのです。

そこで、子どもにもテニスをやらせたいかな……………なんて思う保護者の皆さんも少なくなかったのではないかと。

ところが……………

- ・ 民間のテニスクラブは会費がそこそこするし、道具を揃えて入会させても、続くかどうかわからない
- ・ 自分で教える自信はない……………
- ・ 少年団は、サッカー、野球、ミニバス……………

そんなところに、テニスを気軽に始められ、自分の通っている小学校でできる……………そんなプログラムが受け入れられたのではないかと思えます。

競合団体もなく、学校施設開放の委員会でも問題になることは全くありませんでした。

もちろんその背景として、テニスプロジェクトの指導者達のネットワークがあり、学校の教職員の皆さんや保護者のつながりがかなりできていたというのも、大きかったことを忘れてはいけません。

こうして、種目は限られてはいましたが、母親、父親、女の子、男の子、家族がそれぞれが好きなプログラムを楽しめる……………そんなクラブを目指して2004年～2005年にかけて行った多種目展開が有る程度の成果を収め、現在につながっています。

クラブからの情報発信ツール

■クラブニュース：過去のニュースはWEBに掲載

■facebook：

<http://www.facebook.com/urawasc>

クラブの昔の写真も公表しています。

■メルマガも配信始めました：

無料です。携帯からも簡単登録。

